

2024年4月14日（復活節第3主日、B年）

牧師メッセージ

「心の目」

（ルカによる福音書24:36-48）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音で、ご復活の主イエスは弟子たちの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と声をかけました。先週のヨハネによる福音書と同じセリフです。しかし、同じ主イエスの言葉に対し、弟子たちのリアクションは両福音書で随分異なります。ヨハネによる福音書では「喜びに包まれた」弟子たちですが、今週のルカによる福音書では、恐れおののきます。なぜなら、亡霊だと思ったからです。その弟子たちに主イエスは「なぜうろたえ」「どうして心に疑いを起こすのか」と語りかけます。疑いや恐れにとらわれた人間には、目の前で起こっている神の業を見ることができないからです。主イエスはその疑いや恐れを、彼らとの交わりのなかで取り除いていきます。

主イエスは彼らの前で手足の傷を見せ、共に食事をしました。けれども、彼らはまだ目の前の主イエスが本当に復活したということ信じることができません。目に見える証拠、物的証拠をどんなに見せられても、恐れや疑いに囚われた人間には、神の業を見ることができないのです。だからこそ、主イエスはいよいよ決定的な働きかけを弟子たちになさいました。彼らの「心の目」を開かれたのです。

心の目が開かれなければ、人は真理を見ることができません。これは信仰の真実だと思いません。たとえ目の前で神の業がなされていても、聖霊が吹き荒れていても、心の目が開かれていなければそれに気付くことが出来ないのです。聖書の話はまさにそのことを繰り返し語ります。たとえば今日の旧約聖書で「隅の親石」という言葉がありましたが、クリスチャンの多くはそれを新約聖書と結びつけて、イエス様を連想することでしょう。しかし、信仰の目で読まない方には、それは「？」に過ぎません。主イエスを真の救い主として見ることができた人間もいれば、そうでない人間もいる。その違いは何かといえば、それは「心の目」が開かれているかどうかです。

心の目が開かれたところに、「あなたがたに平和があるように」という平和の世界が広がっています。互いに安心して手を広げて助け合い、愛し合える世界です。そのために、主イエスはわたしたちを解放するのです。ご復活により、死という「終わりの象徴」に勝利され、目をつぶってしまうような現実の先にも必ず希望が備えられていることを示してくださったのです。そしてわたしたちを疑いから解放するために、裏切った弟子たちに現れ、どんな罪も赦されることを示してくださったのです。そうして、主イエスはわたしたちを「うろたえ」させ、「心に疑いを起こす」あらゆるものから解放するために、その命のすべてをささげてくださいました。それはすべて、わたしたちの心の目を塞いでしまうものを取り除くためです。だからこそ、ご復活の主イエスはすぐに弟子たちの前に現れ、「心の目」を開いたのです。